

地域文化財総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	神奈川県・鎌倉市	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	鎌倉武家文化普及啓発事業	【計画の改善時期】 平成 年度	
4 実施計画期間	平成 25 年度 ～ 平成 33 年度		
5 実施計画の概要			
<p>第3次鎌倉市総合計画第3期基本計画を踏まえ、「歴史を継承し、文化を創造するまち」鎌倉をめざし、伝統的な文化の保存・継承など、文化遺産・歴史遺産を活用した地域活性化を推進するため、以下の取組を実施する。 なお、平成32年度からは、第3次鎌倉市総合計画第4期基本計画へと更新される。</p> <p>鎌倉は、源頼朝が鎌倉幕府を開き、武家社会発祥の地と言われる。その鎌倉で生まれ、発展してきた「武家文化」を鎌倉の財産として継承し、新しいまちづくりへと向けての事業を推進していく。</p> <p>時代を経る中でいるいるな形に変わりながらも現代に残る「武家文化」を生み出したものは、後の日本の政治に大きな影響を与えた武家政権である。また、禅宗寺院における五山文化、鎌倉の武士が好んだ田楽能や茶など、「武家文化」は、現代日本の伝統文化の源流といってもよいものである。</p> <p>さらに、鎌倉が育んできた「武家文化」のよさは「座禅」「仏像」「流鏝馬」といったものだけに限らず、それらを包括して新しいものを生み出す力にあると考える。そこで、鎌倉市ではこれらの文化遺産・歴史遺産を保存・継承するだけでなく、これらを活用し、新しい文化を作り出し、それによって地域活性化を推進していきたいと考える。</p> <p>※第3次鎌倉市総合計画は、URL(https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/keiki/index_sougoukeikaku.html)</p>			
6 実施体制			
<p>本実施計画に係る全体の企画・調整や各補助事業に係る指導等は以下の担当課がおこなう。 鎌倉市教育委員会文化財部文化財課：市保有の資料提供、事業の補助等</p> <p>また、補助事業は次の団体が実施する。 玉縄城址まちづくり会議（会長 荒井 章）</p>			
7 実施計画における目標と期待される効果		別紙①のとおり	
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成30年度交付決定額： 2,419 千円	平成31年度申請額： 236 千円
(2) 実施事業の概要		別紙②のとおり	
9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）			
<p>市民の武家文化に対する関心や意識が向上することで、今後世界遺産再登録に向け、地域住民の理解が深まり、協力協働につながると考えられる。</p> <p>また、地域の文化遺産の保存、継承への意識が高まり、地域活性化に向けて期待がもたれ、文化遺産と共生するまちづくりが進むとともに、国内外の観光需要が高まることが想定される。</p>			
10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）			
事業概要：			
事業概要：			
事業概要：			
11 「文化財保存活用地域計画」の作成・認定や「文化財保存活用大綱」の策定、「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等			
<ul style="list-style-type: none"> ・「歴史文化基本構想」は策定について検討中。 ・「歴史的風致維持向上計画」については、歴史的遺産と共生するまちづくりを推進する上で、後世に守り伝えるべきまち並みをより明確に示し、まちづくりの基盤を整えていくことを目的に、「鎌倉市歴史的風致維持向上計画」として策定し、平成28年1月に主務大臣（文部科学大臣、農林水産大臣、国土交通大臣）より計画の認定を受けた。 			
12 担当部局			
地方公共団体 担当部局課	鎌倉市教育委員会文化財部文化財課		

7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分1:	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分1:	その他					(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標1:	鎌倉市への観光客の満足度			関連事業:	①	
目標値1:	【現状値】 平成 30 年度 79 % ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 83 %					
設定根拠1:	第3期鎌倉市環境基本計画に定める目標値(平成37年度、85%)を参考に設定					
進捗状況1:	各年度, 状況値, 目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
%	%	%	%	%	%	
目標区分2:	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分2:	地域の文化遺産関係資料館、博物館等の年間入館者数					(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標2:	玉縄ふるさと館の利用者数			関連事業:	②	
目標値2:	【現状値】 平成 30 年度 7,000 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 8,000 人					
設定根拠2:	平成29年度から平成30年度にかけては、市内の小中学校への周知など、積極的な広報により、約35%の伸び率であった。今後は、他の機関等への広報により、年間約5%の伸び率を設定。					
進捗状況2:	各年度, 状況値, 目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
人	人	人	人	人	人	

8 (2) 実施事業の概要 別紙

事業①：	鎌倉・玉縄城址を活かす歴史ミュージアム事業	実施団体：	玉縄城址まちづくり会議			
事業区分：	人材育成	事業期間：	平成 28 年度 ～ 平成 32 年度			
事業概要：	講師による玉縄城址歴史ミュージアムのための市民学芸員育成講座（実習を含む） 6回開催 ①玉縄城中心部の史料による学習 ②玉縄城域のやぐら・石碑等のフィールドワークを2回 ③資料カード・展示説明カードの作成と民具の補修 ④重文古民家の保全・活用プログラム作り ⑤新委員の体験、縄文土器に触れる初期講座					
評価指標区分：	・ヘリテージマネージャー育成講座修了者の後年度活動者数			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	市民学芸員として30人、うち助手として活動10人					
目標値：	【現状値】 平成 30 年度 20 人 ⇒ 【目標値】 平成 32 年度 30 人					
進捗状況：	各年度，状況値，目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
人	人	人	人	人	人	
事業②：	鎌倉・玉縄城址を活かす歴史ミュージアム事業	実施団体：	玉縄城址まちづくり会議			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 28 年度 ～ 平成 32 年度			
事業概要：	1 「戦国時代の鎌倉、検証と発見 II」についての3回連続のセミナー【玉縄城中心部の発掘調査報告】、【真鍋淳哉氏による「江戸湾海賊と玉縄城】、【黒田基樹氏による「小田原北条家と玉縄城・玉縄領」を開催し検証する。 2 上記セミナーの内容を中心とする報告書の刊行 3 上記報告書の内容を拡大掲示したパネル展の開催					
評価指標区分：	・地域の文化遺産イベント等（本事業の取組を除く）におけるソーシャルキャピタル数（協賛企業・団体、賛同者等）			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	協賛企業、団体、賛同者の合計					
目標値：	【現状値】 平成 30 年度 13 人 ⇒ 【目標値】 平成 32 年度 15 人					
進捗状況：	各年度，状況値，目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
人	人	人	人	人	人	